

青森県経済統計報告

令和2年4月3日
企画政策部統計分析課

1 青森県の推計人口（令和2年3月1日現在） 1

県人口 1,240,587人（対前月1,315人減少）	
自然動態	973人減少（出生者数 506人、死亡者数 1,479人）
社会動態	342人減少（転入者数 1,025人、転出者数 1,367人）

2 本県の経済動向（令和2年1月・2月の経済指標を中心として）

（1）経済概況

本県経済は、緩やかな回復が続いてきたが、新型コロナウイルス感染症の影響が生じており、景気の悪化が懸念される。

（2）主要経済指標の動向

- (2-1) 生産動向 2
・令和2年1月の**青森県鉱工業生産指数**（平成22年=100）は、季節調整済指数が113.9で、前月比10.7%の上昇となり、2カ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は105.2で、前年同月比3.0%の上昇となり、4カ月ぶりに前年同月を上回った。
- (2-2) 雇用労働 3
・令和2年1月の**定期給与**は221,346円で前年同月比1.2%増となった。**総実労働時間**は141.6時間で前年同月比0.9%増、**所定外労働時間**は9.1時間で前年同月比4.2%減となった。
・令和2年2月の**有効求人倍率**（季節調整値）は1.13倍で、前月を0.01ポイント上回った。
- (2-3) 物 価 5
令和2年2月の**青森市消費者物価指数**（平成27年=100）は、総合指数が102.6となり、前月比0.4%の下落、前年同月比0.5%の上昇となった。また、生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は102.5となり、前月比0.2%の下落、前年同月比0.5%の上昇となった。
- (2-4) 個人消費 6
・令和2年2月の**百貨店・スーパー販売額**は、全店舗ベースが128億円で前年同月比2.3%増となり、5カ月ぶりに前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比3.5%増となり、5カ月ぶりに前年同月を上回った。
・令和2年2月の軽乗用車を含めた**乗用車新車登録・届出台数**は3,503台で、前年同月比6.1%減となり、5カ月連続で前年同月を下回った。
・令和2年2月の主な観光施設の**観光入込客数**は、460千人で前年同月比0.4%増となり、2カ月連続で前年同月を上回った。また、主な宿泊施設の**宿泊者数**は、100千人で前年同月比7.5%減となり、7カ月連続で前年同月を下回った。
- (2-5) 建 設 7
・令和2年2月の**新設住宅着工戸数**は273戸で、前年同月比42.5%減となり、6カ月連続で前年同月を下回った。
・令和2年2月の**公共工事請負額**は72億5,100万円で前年同月比154.0%増となり、6カ月連続で前年同月を上回った。
- (2-6) 企業倒産 8
令和2年2月の**企業倒産**は、件数は4件で前年同月比33.3%増となった。負債総額は1億2,100万円で前年同月比51.3%増となった。

（3）景気動向指数C I（令和2年1月分） 9

先行指数	91.7（前月を7.2ポイント下回り、3カ月連続で下降した）
一致指数	114.6（前月を5.2ポイント下回り、2カ月連続で下降した）
遅行指数	111.0（前月を6.3ポイント上回り、2カ月ぶりに上昇した）

1 青森県の推計人口（令和2年3月1日現在）

【概況】

令和2年3月1日現在の本県推計人口は、1,240,587人で、前月に比べ1,315人の減少となった。

○自然動態

出生者数が506人、死亡者数が1,479人で、973人の減少となった。

○社会動態

転入者数が1,025人、転出者数が1,367人で、342人の減少となった。

総人口の推移

(単位：人)

	総数	男	女	対前月 増減率	増減数	自然			社会		
						増減数	出生者数	死亡者数	増減数	県外からの 転入者数	県外への 転出者数
昭 45.10.1	1,427,520	685,477	742,043	-	10,929	-	-	-	-	-	-
50.10.1	1,468,646	707,232	761,414	-	41,126	-	-	-	-	-	-
55.10.1	1,523,907	735,444	788,463	-	55,261	-	-	-	-	-	-
60.10.1	1,524,448	731,439	793,009	-	541	-	-	-	-	-	-
平 2.10.1	1,482,873	704,758	778,115	-	-41,575	-	-	-	-	-	-
7.10.1	1,481,663	704,189	777,474	-	-1,210	-	-	-	-	-	-
12.10.1	1,475,728	702,573	773,155	-	-5,935	-	-	-	-	-	-
17.10.1	1,436,657	679,077	757,580	-	-39,071	-	-	-	-	-	-
22.10.1	1,373,339	646,141	727,198	-	-63,318	-	-	-	-	-	-
27.10.1	1,308,265	614,694	693,571	-	-65,074	-	-	-	-	-	-
31. 3. 1	1,257,085	590,543	666,542	-0.134%	-1,672	-1,086	560	1,646	-586	966	1,552
31. 4. 1	1,250,447	587,119	663,328	-0.531%	-6,638	-865	597	1,462	-5,773	3,410	9,183
令元. 5. 1	1,250,388	587,261	663,127	-0.005%	-59	-913	605	1,518	854	3,444	2,590
元. 6. 1	1,249,315	586,720	662,595	-0.086%	-1,073	-1,005	635	1,640	-68	1,360	1,428
元. 7. 1	1,248,340	586,255	662,085	-0.078%	-975	-703	611	1,314	-272	1,091	1,363
元. 8. 1	1,247,658	586,057	661,601	-0.055%	-682	-775	643	1,418	93	1,826	1,733
元. 9. 1	1,246,877	585,702	661,175	-0.063%	-781	-856	589	1,445	75	1,692	1,617
元. 10. 1	1,246,291	585,461	660,830	-0.047%	-586	-847	569	1,416	261	1,592	1,331
元. 11. 1	1,245,301	584,988	660,313	-0.079%	-990	-903	646	1,549	-87	1,262	1,349
元. 12. 1	1,244,403	584,597	659,806	-0.072%	-898	-986	575	1,561	88	1,074	986
令2. 1. 1	1,243,282	584,080	659,202	-0.090%	-1,121	-1,018	553	1,571	-103	942	1,045
令2. 2. 1	1,241,902	583,414	658,488	-0.110%	-1,380	-1,230	582	1,812	-150	1,117	1,267
令2. 3. 1	1,240,587	582,838	657,749	-0.106%	-1,315	-973	506	1,479	-342	1,025	1,367

2月中の人口動態の推移

(単位：人)

年月		H22.2	23.2	24.2	25.2	26.2	27.2	28.2	29.2	30.2	31.2	R2.2
自然 動態	出生者数	763	681	709	655	657	642	662	621	626	560	506
	死亡者数	1,243	1,301	1,602	1,477	1,356	1,396	1,543	1,478	1,566	1,646	1,479
	自然増減数	-480	-620	-893	-822	-699	-754	-881	-857	-940	-1,086	-973
社会 動態	県外からの 転入者数	1,063	1,017	1,012	992	1,028	965	1,088	999	962	966	1,025
	県外への 転出者数	1,325	1,266	1,332	1,266	1,292	1,384	1,408	1,359	1,389	1,552	1,367
	社会増減数	-262	-249	-320	-274	-264	-419	-320	-360	-427	-586	-342
増減数計		-742	-869	-1,213	-1,096	-963	-1,173	-1,201	-1,217	-1,367	-1,672	-1,315

※1 昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年は国勢調査人口（確定値）。

※2 平成27年11月1日以降の人口は、平成27年国勢調査人口（確定値 総務省統計局 平成28年10月26日）を基礎に推計している。

※3 増減数は、昭和45、50、55、60、平成2、7、12、17、22、27年が各々の前回国勢調査、その他が前月推計人口に対するものである。

※4 算出方法

県の推計人口 = 前月の人口 + 自然増減数（出生者数 - 死亡者数） + 社会増減数（県外からの転入者数 - 県外への転出者数）

2 本県の経済動向

(2) 主要経済指標の動向

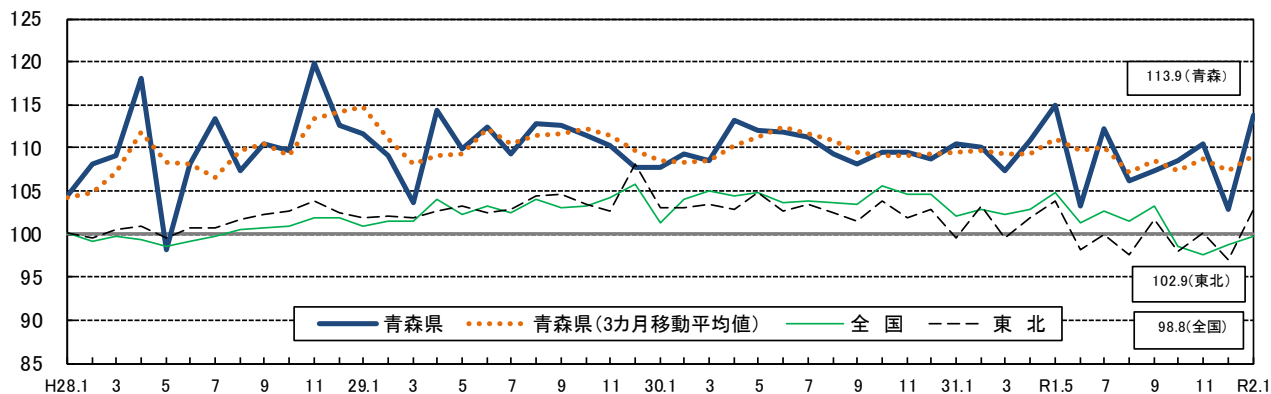
(2-1) 生産動向

令和2年1月の青森県鉱工業生産指数（平成22年=100）は、季節調整済指数が113.9で、前月比10.7%の上昇となり、2カ月ぶりに前月を上回った。また、原指数は105.2で、前年同月比3.0%の上昇となり、4カ月ぶりに前年同月を上回った。

季節調整済指数で前月からの動きをみると、電子部品・デバイス工業、生産用機械工業、電気機械工業等が上昇に寄与した一方、金属製品工業、非鉄金属工業、はん用機械工業等が低下し、鉱工業全体では10.7%の上昇となった。

青森県・全国・東北の鉱工業生産指数推移（季節調整済指数）

（平成22年=100、全国、東北は平成27年=100）

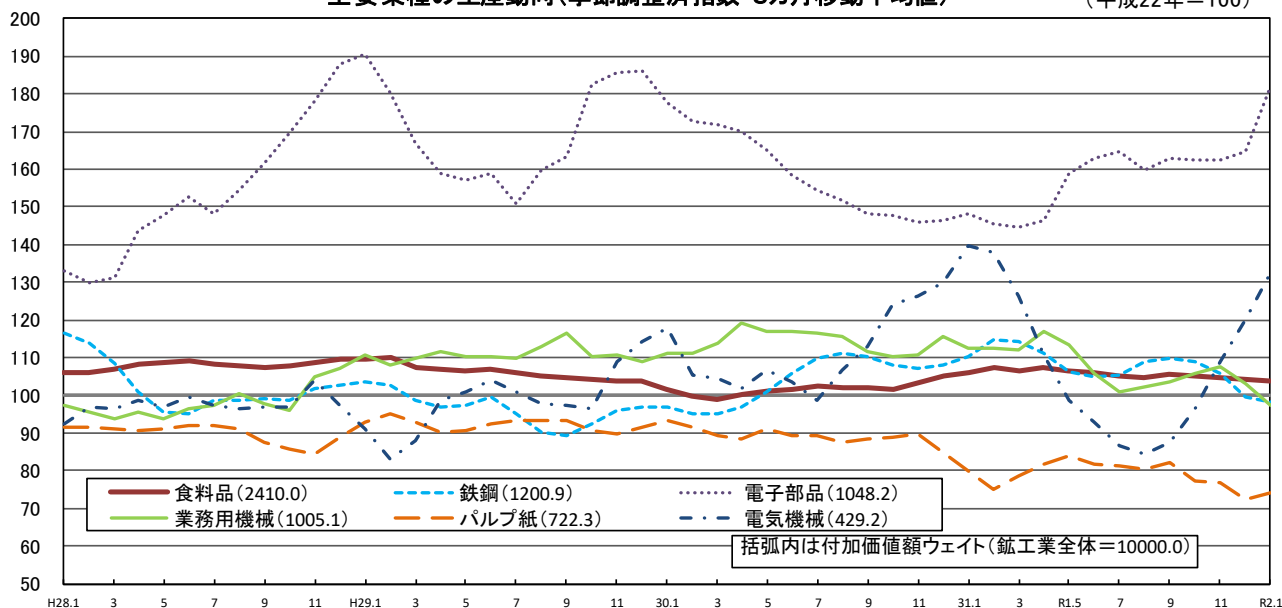


◎業種別動向（前月比） 鉱工業全体 10.7%

プラス			マイナス		
業種	前月比(%)	寄与率(%)	業種	前月比(%)	寄与率(%)
電子部品・デバイス工業	25.2	38.7	金属製品工業	-10.2	-5.2
生産用機械工業	252.3	35.6	非鉄金属工業	-10.6	-3.4
電気機械工業	16.0	7.5	はん用機械工業	-32.3	-1.7
化学工業	42.0	7.0	情報通信機械工業	-8.3	-0.8
石油・石炭製品工業	128.3	5.8	印刷業	-5.9	-0.5

主要業種の生産動向(季節調整済指数・3カ月移動平均値)

(平成22年=100)



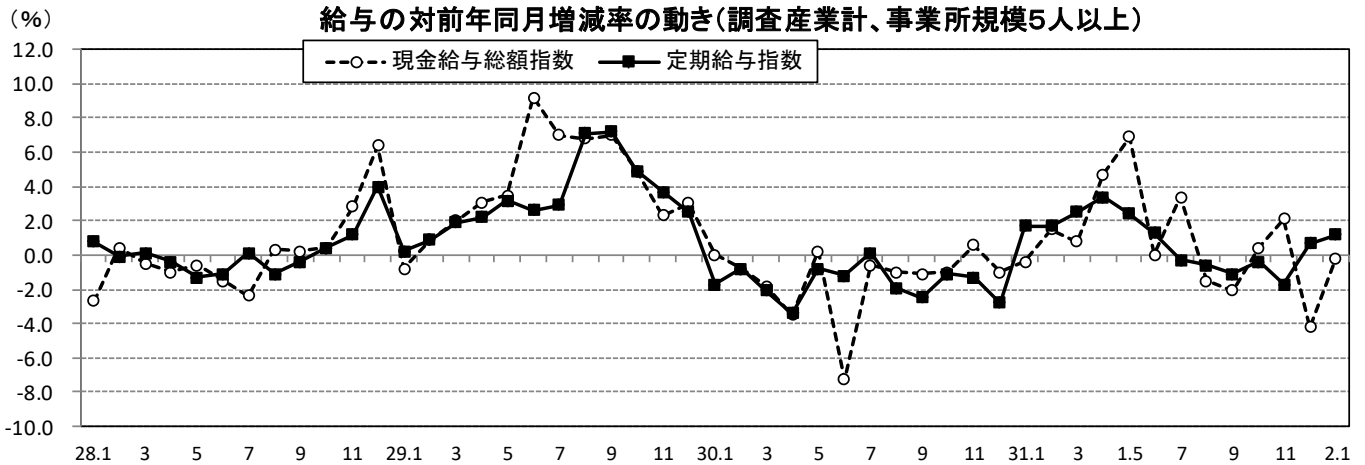
資料：県統計分析課「青森県鉱工業生産指数（速報）」

(2-2) 雇用労働

(2-2-1) 給与・労働時間（毎月勤労統計調査結果）

令和2年1月の定期給与は221,346円で、定期給与指数（平成27年=100）では102.5となり、前年同月比1.2%増と2カ月連続の増（現金給与総額226,075円、現金給与総額指数90.1、前年同月比0.2%減）となった。また、実額で比較した定期給与の全国対比は84.3となった。

総実労働時間は141.6時間で、総実労働時間指数は91.6となり、前年同月比0.9%増と17カ月ぶりの増となった。このうち、所定外労働時間は9.1時間で、所定外労働時間指数は79.1となり、前年同月比4.2%減と24カ月連続の減となった。



資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

給与及び労働時間の全国との比較(調査産業計、事業所規模5人以上)

	実数		指数(H27=100)		対前年同月増減率	
	青森県	全国	青森県	全国	青森県	全国
現金給与総額	226,075 円	276,520 円	90.1	87.6	-0.2	1.5 %
定期給与	221,346 円	262,555 円	102.5	100.8	1.2	1.2 %
特別給与	4,729 円	13,965 円	—	—	—	10.4 %
総実労働時間	141.6 時間	131.3 時間	91.6	90.9	0.9 %	0.8 %
所定内労働時間	132.5 時間	121.4 時間	92.6	90.9	1.2 %	1.0 %
所定外労働時間	9.1 時間	9.9 時間	79.1	90.0	-4.2 %	-2.9 %

(注)1. 「定期給与」とは、あらかじめ定められている支給条件、算定方法によって支給される給与のことで、超過労働給与（所定の労働時間をこえる労働、休日労働、深夜労働に対して支給される給与）を含みます。

2. 「特別給与」とは、給与の差額追給額（ベースアップ分）、3か月をこえる期間単位で支給される住宅手当や通勤手当、賞与（ボーナス）等のことです。

3. 「所定内労働時間」とは、正規の始業時刻と終業時刻との間から休憩時間を差し引いた労働時間のことです。

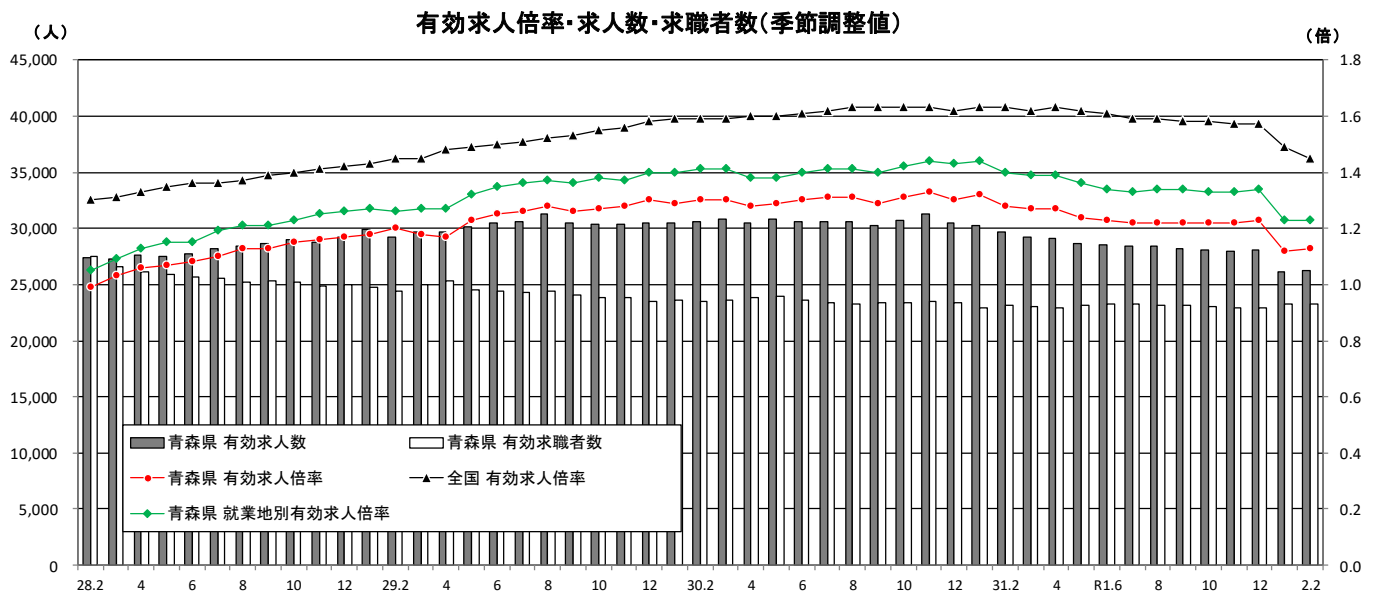
4. 「所定外労働時間」とは、早出、残業、休日出勤等の労働時間のことです。

5. 全国の数値については、平成30年11月確報から、平成24年以降において東京都の「500人以上規模の事業所」についても再集計した値（再集計値）に変更しており、従来の公表値とは接続しないことにご注意ください。また令和元年6月分速報から「500人以上規模の事業所」について全数調査による値に変更していることにご注意ください。

資料：県統計分析課「毎月勤労統計調査結果(速報)」

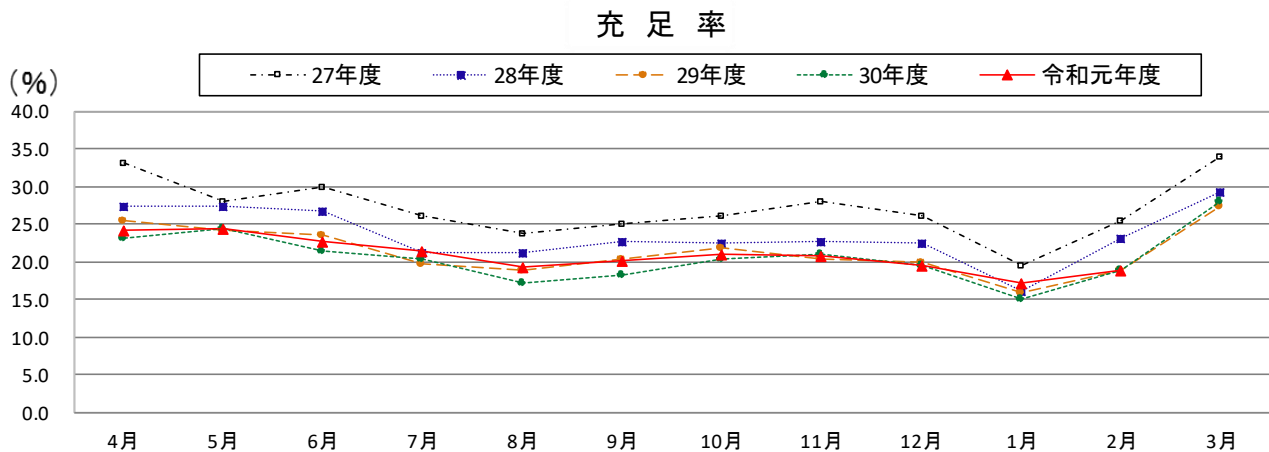
(2-2-2) 有効求人倍率

令和2年2月の有効求人倍率（季節調整値）は1.13倍で、前月を0.01ポイント上回った。就業地別有効求人倍率は1.23倍で、前月と同値となった。



(参考) 充足率（新規学卒者を除きパートタイムを含む）

令和2年2月の充足率は18.8%で、前年同月と同値となった。



資料：青森労働局職業安定部職業安定課「職業安定業務取扱月報」※充足率=充足数/新規求人数

(2-3) 物価

令和2年2月の青森市消費者物価指数(平成27年=100)は、総合指数が102.6となり、前月と比べ0.4%の下落、前年同月と比べ0.5%の上昇となった。

生鮮食品を除く総合指数は102.9となり、前月と比べ0.2%に下落、前年同月と比べ0.6%の上昇となった。

生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数は102.5となり、前月と比べ0.2%の下落、前年同月と比べ0.5%の上昇となった。

総合指数が前月と比べ0.4%の下落となった内訳を寄与度でみると、食料(生鮮野菜など)、家具・家事用品(家庭用耐久財)などの下落が要因となっている。

総合指数が前年同月と比べ0.5%の上昇となった内訳を寄与度でみると、食料(生鮮果物など)、住居(設備修繕・維持など)などの上昇が要因となっている。

図1 総合指数の動き

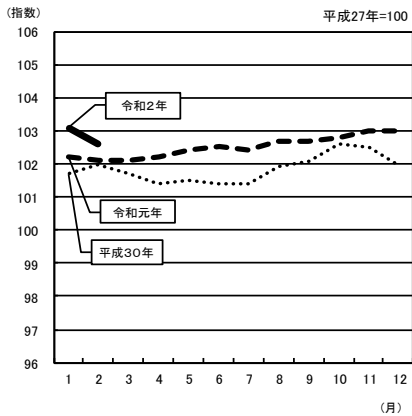


図2 生鮮食品を除く総合指数の動き

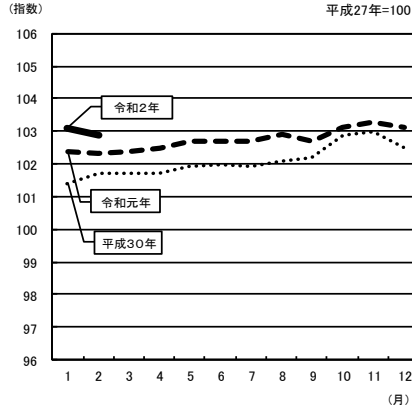
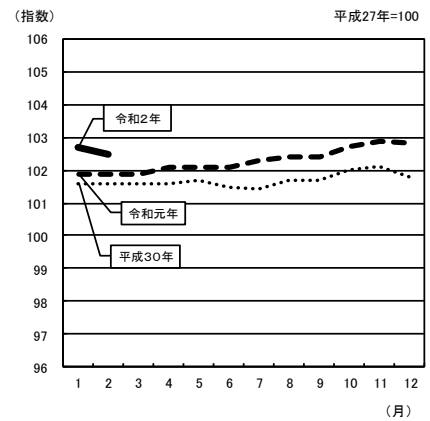


図3 生鮮食品及びエネルギーを除く総合指数の動き



10大費目指数の動き

(平成27年=100)

	総合	生鮮食品を除く総合	生鮮食品及びエネルギーを除く総合	食料(酒類を除く)及びエネルギーを除く総合	食料	生鮮食品	住居	光熱・水道	家具・家事用品	被服及び履物	保健医療	交通・通信	教育	教養娯楽	諸雑費
当月指数	102.6	102.9	102.5	101.0	105.5	97.3	101.3	104.7	101.8	104.5	102.4	99.9	98.4	103.6	96.7
前月比(%)	▲ 0.4	▲ 0.2	▲ 0.2	▲ 0.2	▲ 0.8	▲ 3.9	0.0	▲ 0.1	▲ 1.7	1.0	▲ 0.3	▲ 0.2	0.0	▲ 0.3	▲ 1.0
寄与度	—	▲ 0.23	▲ 0.15	▲ 0.10	▲ 0.24	▲ 0.18	▲ 0.01	▲ 0.01	▲ 0.07	0.03	▲ 0.01	▲ 0.02	0.00	▲ 0.02	▲ 0.06
前年同月比(%)	0.5	0.6	0.5	0.2	1.1	▲ 0.9	1.2	0.7	▲ 0.3	3.7	0.0	1.2	▲ 4.2	1.2	▲ 6.5
寄与度	—	0.53	0.44	0.10	0.32	▲ 0.04	0.25	0.08	▲ 0.01	0.11	0.00	0.15	▲ 0.11	0.10	▲ 0.39

資料: 県統計分析課「消費者物価指数 月報」

※ **寄与度**とは、ある費目の指数の変動が、総合指数の変化率のうち何ポイント寄与したかを示したものであり、全費目の寄与度を合計すると、原則として、総合指数の前月比及び前年同月比(%)の値に一致する。

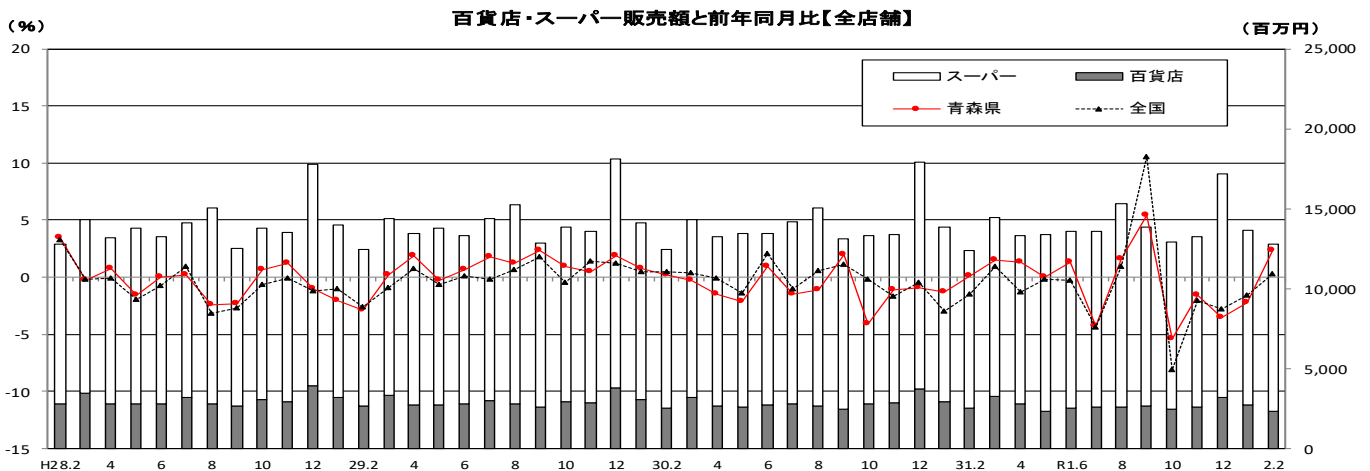
前月比、前年同月比及び寄与度は、端数処理前の指数値を用いて計算しているため、公表された指数値を用いて計算した値とは一致しない場合がある。

本資料は総務省統計局「小売物価統計調査」の調査票情報を独自集計したものである。

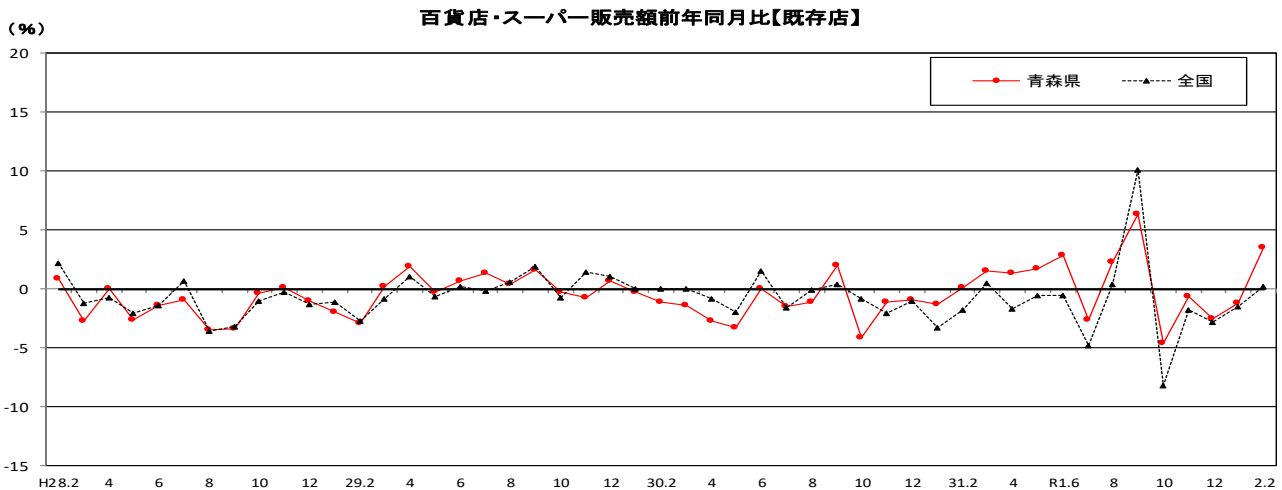
(2-4) 個人消費

(2-4-1) 百貨店・スーパー販売額

令和2年2月の百貨店・スーパー販売額は、全店舗ベースが128億円で前年同月比2.3%増となり、5カ月ぶりに前年同月を上回った。また、既存店ベースでは前年同月比3.5%増となり、5カ月ぶりに前年同月を上回った。



資料：東北経済産業局「東北地域百貨店・スーパー販売額動向」、経済産業省「商業動態統計速報」

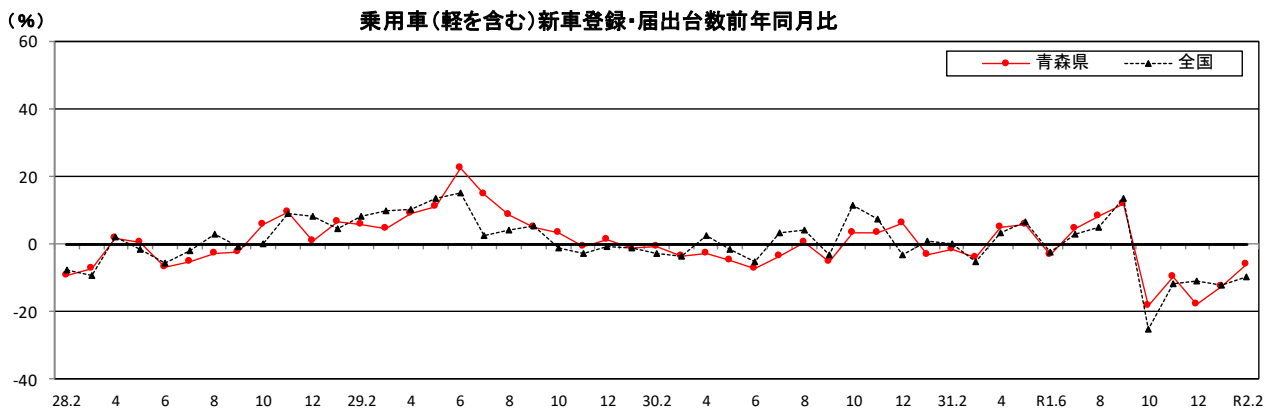


資料：東北経済産業局「東北地域百貨店・スーパー販売額動向」、経済産業省「商業動態統計速報」

* 大型小売店は従業員が50人以上で売場面積が1,500平方メートル以上の商店をいう。そのうち、既存店とは、当月及び前年同月とも調査の対象となっている商店をいう。

(2-4-2) 乗用車新車登録・届出台数

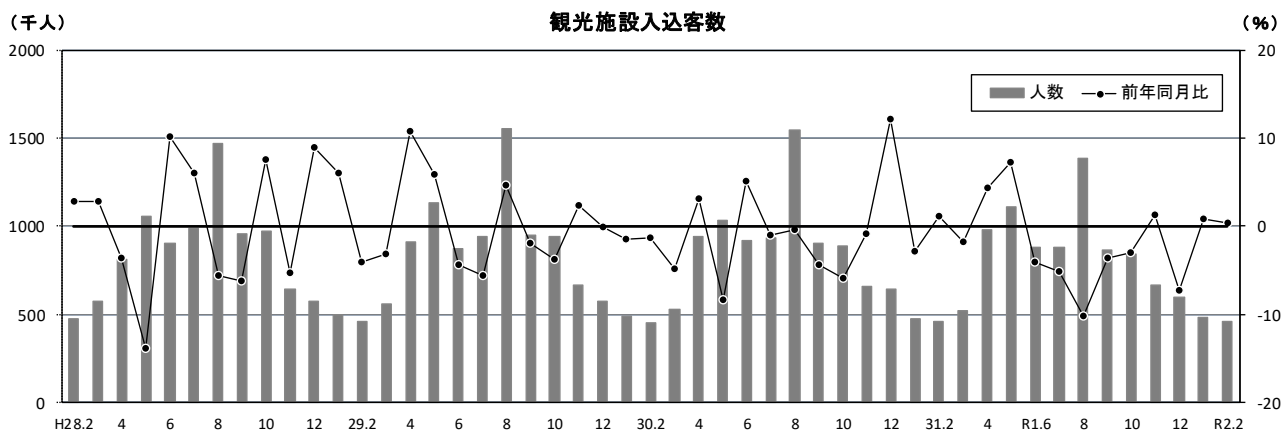
令和2年2月の軽乗用車を含めた乗用車新車登録・届出台数は3,503台で、前年同月比6.1%減となり、5カ月連続で前年同月を下回った。普通車、小型車及び軽乗用車のいずれも減少したことによる。



資料：日本自動車販売協会連合会青森県支部「自動車登録状況 新車月報」、同連合会「自動車統計データ」

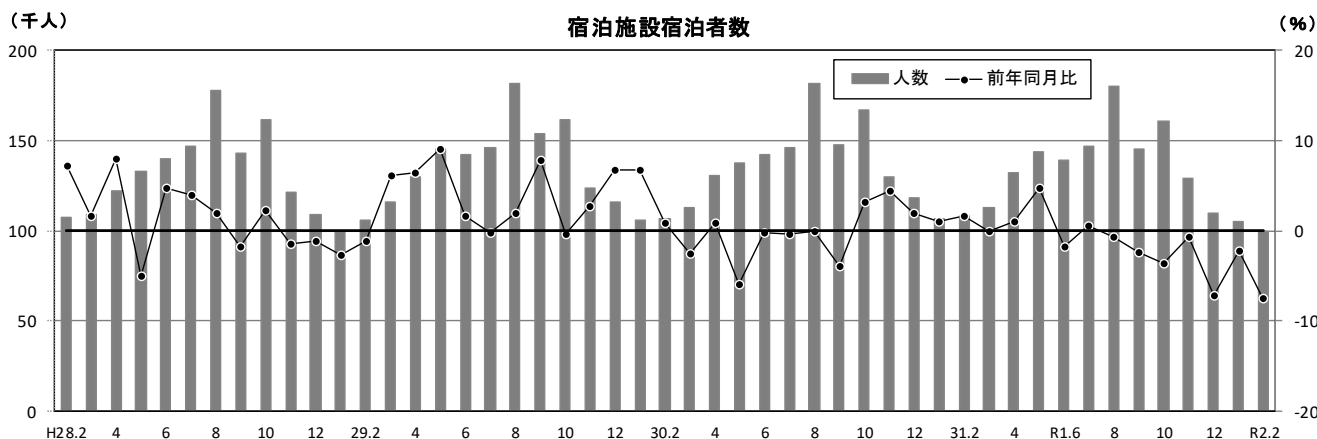
(2-4-3) 観光入込客数・宿泊者数

令和2年2月の主な観光施設の観光入込客数は、460千人で前年同月比0.4%増となり、2カ月連続で前年同月を上回った。また、主な宿泊施設の宿泊者数は、100千人で前年同月比7.5%減となり、7カ月連続で前年同月を下回った。観光施設は青森市の施設で増加し、宿泊施設は青森市、八戸市、むつ市の施設で減少したことによる。



資料: 県観光企画課「月例観光統計」

※観光施設35施設 (H24年1月~H26年3月は35施設、H26年4月~H28年12月は34施設、H29年1月以降は35施設対比)



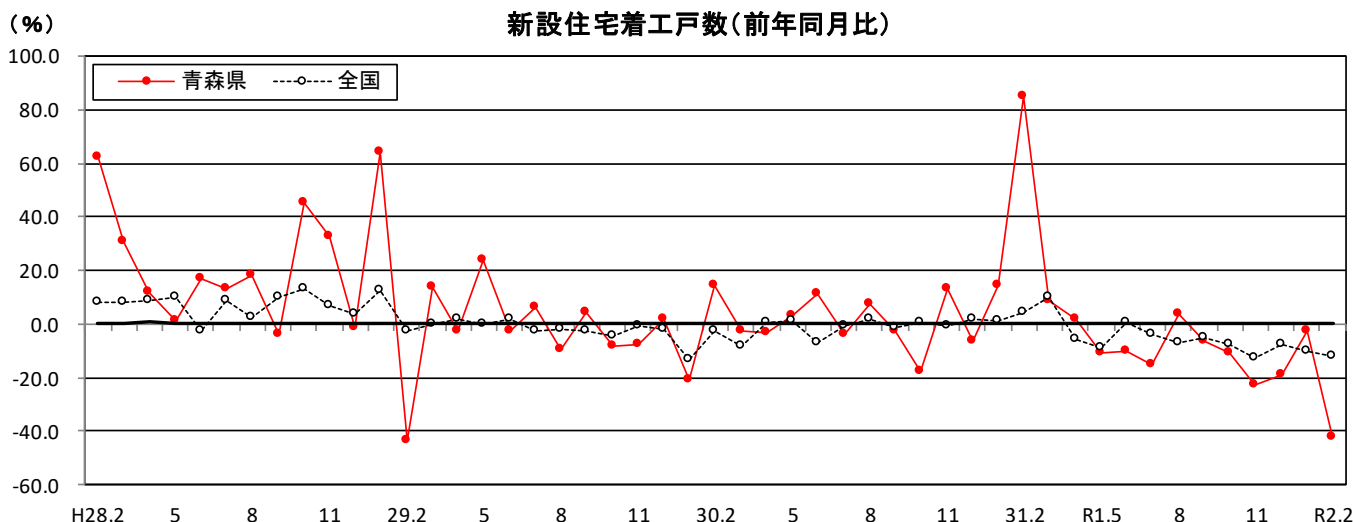
資料: 県観光企画課「月例観光統計」

※宿泊施設56施設 (H24年12月~H26年3月は57施設、H26年4~12月は56施設、H27年1~12月は55施設、H28年1月以降は56施設対比)

(2-5) 建設

(2-5-1) 住宅建設

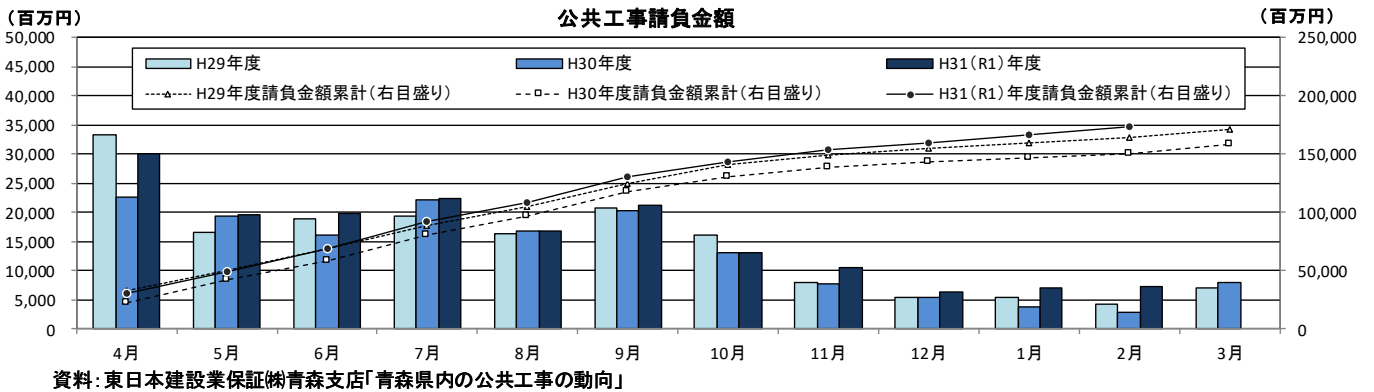
令和2年2月の新設住宅着工戸数は273戸で前年同月比42.5%減となり、6カ月連続で前年同月を下回った。持ち家と貸家が減少したことによる。



資料: 県建築住宅課「建築着工統計」、国土交通省「建築着工統計調査報告」

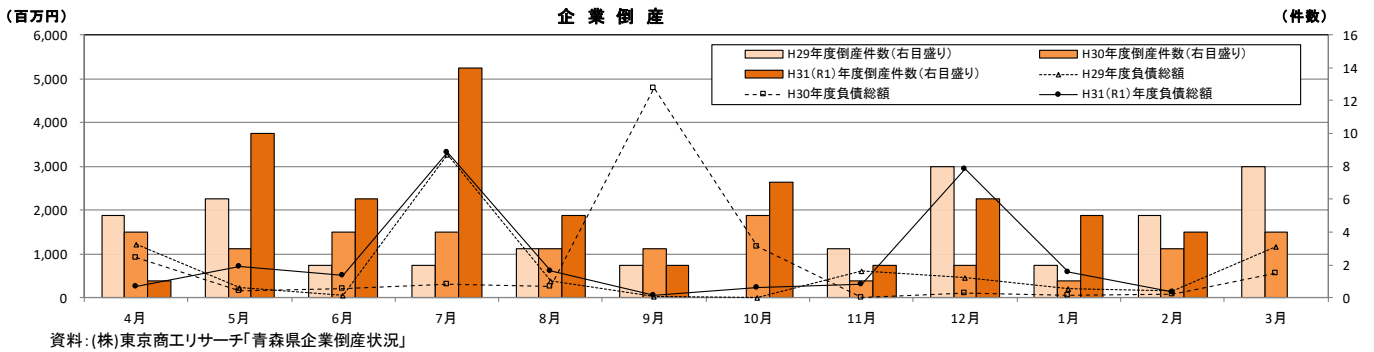
(2-5-2) 公共事業

令和2年2月の公共工事請負金額は72億5,100万円で前年同月比154.0%増となり、国、県などの増加により6カ月連続で前年同月を上回った。また、令和2年2月までの累計金額は1,739億7,800万円で前年同期比15.9%増となった。



(2-6) 企業倒産

令和2年2月の企業倒産は、件数は4件で前年同月比33.3%増となった。負債総額は1億2,100万円で前年同月比51.3%増となった。また、令和2年2月までの累計倒産件数は62件で前年同期比87.9%増、負債総額は96億4,400万円で前年同期比19.9%増となった。



(3) 青森県景気動向指数

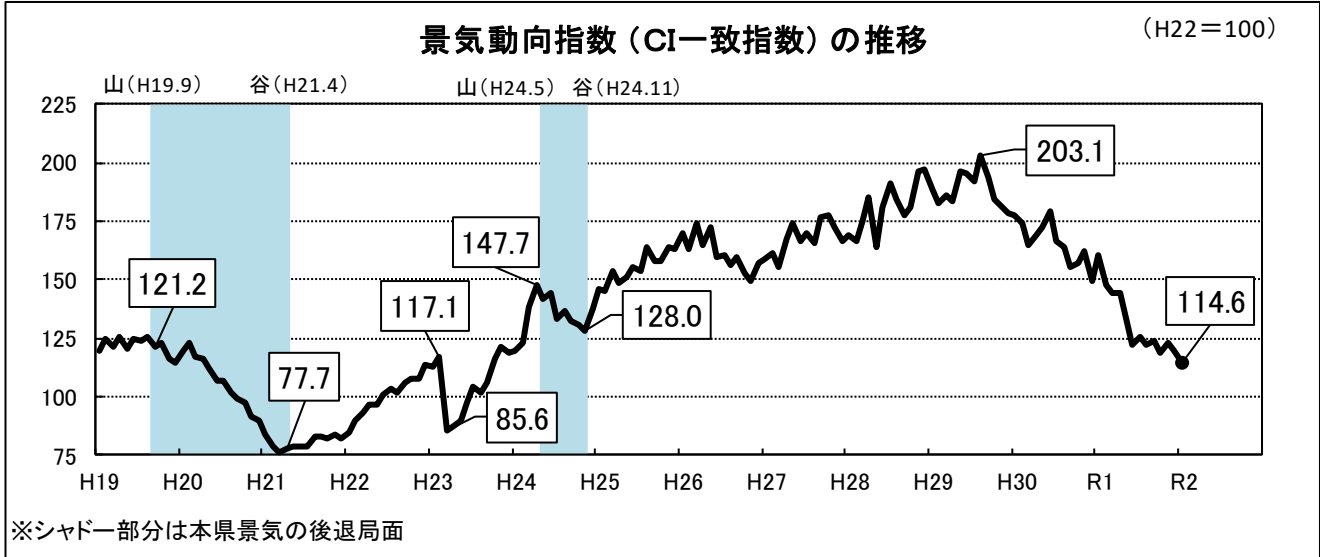
令和2年1月の青森県景気動向指数（C I）は、先行指数 91.7、一致指数 114.6、遅行指数 111.0 となった。

先行指数は、前月を 7.2 ポイント下回り、3 カ月連続で下降した。

一致指数は、前月を 5.2 ポイント下回り、2 カ月連続で下降した。

遅行指数は、前月を 6.3 ポイント上回り、2 カ月ぶりに上昇した。

1 月の一致指数は雇用、消費関連の指標がマイナスになったことから下降した。



●個別系列の動き（各指標は季節調整等を行い、寄与度を前月と比較しています）

寄与度がプラスの指標			寄与度がマイナスの指標		
先行系列					
生産財生産指数	1.28	4カ月ぶり	新規求人倍率（全数）	-4.77	4カ月ぶり
乗用車新車登録届出台数	1.11	2カ月ぶり	企業倒産件数（逆サイクル）	-4.60	3カ月連続
新設住宅着工床面積	0.41	2カ月連続	日経商品指数（42種）	-0.60	4カ月ぶり
建築着工床面積	0.04	7カ月ぶり			
中小企業景況D I	0.01	2カ月連続			
一致系列					
投資財生産指数	3.04	2カ月ぶり	有効求人倍率（全数）	-6.68	2カ月ぶり
鉱工業生産指数	2.29	2カ月ぶり	旅行取扱高	-1.99	3カ月ぶり
百貨店・スーパー販売額（既存店）	0.56	2カ月ぶり	所定外労働時間指数（全産業）	-1.79	4カ月ぶり
			輸入通関実績（八戸港）	-0.67	3カ月連続
遅行系列					
家計消費支出（勤労者世帯：実質）	3.27	2カ月ぶり	有効求職者数（全数）（逆サイクル）	-0.68	2カ月連続
常用雇用指数（全産業）	2.35	2カ月ぶり	りんご消費地市場価格	-0.27	3カ月ぶり
公共工事請負金額	2.02	2カ月ぶり	青森市消費者物価指数（総合）	-0.23	3カ月ぶり
			県内金融機関貸出残高	-0.11	4カ月ぶり

(参考) 青森県景気動向指数（D I）

先行指数	25.0%	（9カ月連続で50%を下回った）
一致指数	28.6%	（3カ月ぶりに50%を下回った）
遅行指数	78.6%	（2カ月ぶりに50%を上回った）